

シリーズ「がんばれどろんこちるどれん」⑨  
**子どもの野生復帰大作戦**  
**推進フォーラム** ①

野外活動や自然体験の必要性を再認識し、地域ぐるみで推進していくためのフォーラムを10月22日、豊岡市民プラザで開催しました。前回に引き続き、基調講演の概要を紹介いたします。

**つくる・遊ぶ・考える**

子どもの発達と自然体験

和光大学非常勤講師

関根 秀樹 さん

(前回の続き)

基本的な自然体験がないと、勉強した知識とつまく結び付きませんし、知識が深くなりません。火おこしても、木をこすれば火がおきることは誰でも知っています。けれど、実際火がおきるまでやったことがある人と、そうでない人とは大きな差があります。

この辺りにはたくさん植物などがありますから、小さいころから多く触れて、遊びながら知識を深くしていくことが、子どもには一番重要なのではと思います。そのため

《問合せ》生涯学習課

にも「焚き火と木登りと穴掘り」、それに付随して水遊び、泥遊びができる場所が身近なところに欲しいと思います。

火打ち石の穂綿も灰汁を染み込ませれば、触媒作用で発火温度が下がります。要するに燃えやすくなるのです。このように民俗的な歴史の知恵と科学とを結び付ければ、理科教育や歴史教育も関連し合ってもっと面白くなると思います。これがまさに自然教育、子どもたちの野生化に結び付き、そうした新しい学びのスタイルがこれから重要になってくると思います。

よくお母さん方が子どもに自然体験をさせたいと言われますが、自然は身近にあると思います。しかし、子どもの

ころに自然体験がなかった人たちは、目の前にあってもそれに気づかないし、遊びようがないのです。だから、子どもたちを引き付けるような、リーダーになる人々たちを養成しないとけません。子どもたちを野外に導くのに一番大事なのは、場所づくりもありますが、何よりも人づくりです。地元の人材はたくさんいます。その方たちをうまく、お互い利用し合って場所づくり、人づくりをしていけば良いと思います。そして、何より教える人が一番楽しそうであればいいけません。

自然の中での体験は、実は学校の勉強とも深いところで結び付いています。皆さんも遊びながら学んでいくことを、豊岡の自然の中で体験してみてください。



▲民族楽器などの実演を交えて講演される関根さん

但東の小学生がユニークな共同生活に挑戦

11月26日から30日まで、但東町出合区公民館で「但東っ子通学合宿」(同実行委員会主催)が行われ、合橋、高橋、資母の小学3〜6年生の34人が、4泊5日の共同生活を体験しました。

通学合宿とは、異なる小学校の子どもたちが同じ公民館に寝泊まりしながら、各学校に通う取り組みで、家族から離れて集団生活をするることによって、協調性や自立を図るものです。

学校から公民館に帰ってきた子どもたちは、まず、宿題、その後は夕食の準備に取りかかります。料理の指導は、地区の方やPTAの役員の皆さん

んがしてくれれます。また、近所のお宅での「もらい風呂」など、地域の方たちとの交流もできました。

子どもたちは、地域の方たちに支えられ、集団で何かをするこの大変さや楽しさなどを充分に感じたことでしょう。これからの成長が楽しみです。



▲宿題も友達と一緒になので(いつもより?)ががんばれます



▲もらい風呂、通学見守り、ご飯づくりなどお世話になった方たちと一緒に楽しいお別れ会



▲「雑魚寝は楽しいね」でも「早く寝なさい」